

平成 18 年度最終報告書

被助成者 特定非営利活動法人ラオスのこども

コード番号 06-A-280

財団法人 庭野平和財団

理事長 庭野欽司郎 殿

2008 年[平成 20 年]3 月 23 日

申請団体 特定非営利活動法人ラオスのこども 共同代表 森 透
チャンタソン インタヴォン

申請団体住所 〒143-0025 Tel&Fax: 03-3755-1603
東京都大田区南馬込 6-29-12-303 E-mail: deknoylao@nifty.com

申請事業の名称 対象分野(1 2)
ラオスの識字活動を担う若手作家育成事業

助成金額
800,000 円

I. 活動の目的

ラオスでは、山がちな地形、60 を越える民族の存在、植民地時代のラオス語軽視の教育政策、ベトナム戦争の影響、経済の疲弊などの様々な要因により、子どもたちの教育環境の整備が遅れている。図書室のある学校はめずらしく、町にも書店がないため、子どもたちが文字に親しむ機会はほとんどない。また口承文化の伝統が強く文字文化が発達してこなかったため、読書が習慣化されていない。このため、子どもたちは学校で読み書きを習ってもなかなか身に付かず、基礎教育の普及が遅れている。成人識字率は 66.4% (2000-2004) *とアジア諸国の中で、最低となっている。(*: "Education for all" UNICEF,2005)

そのような状況の中で、当会は、ラオスの子どもたちが図書を読むことを通して自らの人生を主体的に選択していく力を身につけていって欲しいと願い、教育分野の中でも読書環境を改善するため、以下のような活動を行ってきた。

- (1)114 タイトル、合計 57 万冊の図書を出版し、全国の小中学校へ配付 (1990-2006)
- (2)若手作家育成のため 1995 年から 4 回に渡り日本の専門家を派遣、絵本や編集に関するセミナーを実施
- (3)2000 年、2002 年に民話絵本コンクールを実施、優秀作品 (合計 5 作品) を出版

読書環境の改善には図書そのものと共に、自国語で書かれた作品が欠かせない。ラオスでは図書のみならず、そのソースとなるラオス語作品そのものが極めて少ないため、作家の育成が急務となっている。「若手作家育成セミナー」と「民話絵本コンクール」は、その端緒として一定の成果を上げることができ、「民話」などの身近にある題材を使った絵本の分野では、作品の出版機会が増加し、作家も少しずつ増えてきた。しかし、絵本の次の段階に読むような文章の長いものやノンフィクションなどの分野では、作家が育っていないのが現状であり、ラオス語作品は限られている。

この状況に鑑み、発表機会の提供による多様なジャンルの作家育成と作家志望者の発掘を目的とし、今回のコンクール実施を立案するにいたった。

今回のコンクールの特色として、以下の点があげられる。

- ・ 普段発表の機会の少ない若年層を対象とすることにより、次代を担う若手作家を応援し、今後の創作活動を活性化することを狙う
- ・ 作家志望者の裾野を広げるため年齢に下限を設けず、中高生なども応募出来るようにする。
- ・ 環境や文化といったテーマ、エッセイやノンフィクションといった分野を設定することにより、社会や地域により目を向けたバラエティに富んだ作品を書くことのできる作家を発掘、育成する。
- ・ 入賞した作品を出版し広くラオス国内で配付することで、将来の作家志望者を育て、また小中学校の副教材の充実を図る。

自国語により図書作品を創る作家が増えることは、識字率や教養の向上だけに終わらない、根本的な読書環境の改善につながり、ひいては文化の創造にもつながる。

豊かな文化的土壌の中で図書と出会った子どもたちが、他者の存在や広い世界を知り、豊かな感性や創造性を身につけ成長し、自らの国と豊かな文化を創る担い手となれば、将来的には地域の安定と発展につながり、紛争や悲劇のない社会の構築につながると考える。

II. 活動の内容と方法

<コンクールの開催>

以下のような募集要項にて、コンクールを実施。

応募資格 25歳以下

応募規定 自然保護、環境、文化、生活等をテーマにしたオリジナル文章（ラオス語）
ひとりの応募作品数は自由。ただし1作品あたり、A4用紙3枚以上。

募集期間 2006年10月1日～12月31日（当会ヴィエンチャン事務所に送付）

募集の告知は、当会のネットワーク、新聞やラジオ、教育省などを通じて、広く呼びかけた。また、コンクールへの応募に不慣れな人も多いことから、募集開始時には希望者を対象にオリエンテーションを実施。全国に広く告知し、より多くの方が応募の機会を得られるように、募集期間は当初の計画より1か月を延長した。

結果、応募総数は228点。応募者の在住地域は広く、北から南まで9県からの応募があった。また、中学生から社会人まで幅広い層から応募されており、時間をかけて広く呼びかけたことが、多くの作品数につながったと思われる。ただし、予想より多くの作品が集まったため、審査に時間がかかり、結果発表が遅れることとなった。

審査日程 2007年1月～2月にヴィエンチャンにて審査

審査は3段階で実施し、第1次審査通過は185点、第2次審査通過は156点であった。最後の第3次審査で38点に絞られ、入賞作品が決定した。

審査員 ラオス人の作家及び出版関係者 5名

審査結果 「短編小説部門」

1位：1点 2位：2点 3位：2点 奨励賞：3点 特別賞：5点

「ノンフィクション部門」

1位：1点 2位：2点 3位：3点 奨励賞：8点

「エッセイ部門」

1位：1点 2位：1点 3位：2点 奨励賞：7点

審査結果の発表及び表彰式の開催 2007年3月30日

3部門全てで1位を獲得したのは、ビジネスカレッジに通うひとりの学生であった。審査員からは、「彼が書く文章は、他の作品とは比較できないほど素晴らしい」と賞賛された。表彰式の最後に、1位を獲得した学生に、彼が書いた短編小説を朗読してもらったところ、感動して涙を流す観客もいたとのことだった。（※別添のコンクール入賞者へのインタビュー記事参照）

なお、ラオスにおいては、エッセイや小説等の分野が確立されていないため、募集の際には部門を限定せず、審査の際に、応募された作品を3つの部門に分けて審査した。審査の結果は、本人に連絡すると共に、表彰式の様子を含めて、新聞紙上でも報告した。

<優秀作品の出版>

当初の計画では、上記コンクールで1位～3位を受賞した優秀作品を1冊にまとめて出版すること予定であった。しかし、1位～3位及び特別賞、奨励賞を合わせた入賞作品数が合計38点となったため、1冊にまとめて出版することが難しい状況となった。そこで、部門別に分けて3冊に分けて出版することにした。出版部数は、当初1万部を予定していたが、各5000部とし、合計1万5千部の出版とすることとした（うち、2冊が当助成金該当分。残りの1冊は他の支援者を得て出版）。

また、作品に合う挿絵を入れて出版する予定であったが、作品数が多く、全てに挿絵を依頼することが難しかったため、各作品の見出し毎に写真を入れることとした。

若手対象のコンクールのため、入賞した作品であっても、本として出版するためには、文章の修正が必要な作品が多くあった（ラオス語を正しい表現に直す等）。時間がかかることではあるが、手直しをすることが若手の育成に繋がると考え、本に掲載する各作品にアドバイスをして、修正してもらった。経験がない若手が多かったことと、指導者が不足していることから、手直し作業の時間が予定よりも大幅にかかった。

また、ラオスでは編集作業ができる人材が大変少なく、特に今年はその編集者が多忙であったため、編集作業の完了が遅くなった。

更に、ラオスでは技術力のある印刷所の数も不足している。当初予定していた印刷所は、10月の時点では業務がいっぱいで印刷を発注しても、完成までに時間がかかるとのことだったので、他の印刷所に発注した。しかし、出来上がってきたものは、表紙装丁の完成度が低かったため、やり直しをしてもらうこととなった。

出版作品は以下の通り

『10月1日』	短編小説部門	7作品掲載		
	印刷完了	2007年8月	13.5 cm×18.8 cm	112頁
『人生と希望』	短編小説&エッセイ部門	11作品掲載		
	印刷完了	2007年11月	13.5 cm×18.8 cm	112頁
『追憶』	ノンフィクション部門	10作品掲載		
	印刷完了	2008年1月	13.5 cm×18.8 cm	92頁

<出版した作品の配付>

出版した作品は、当会の図書配付事業および図書室設置事業などを通して、ラオス各地の学校や図書館へ順次配付する。1年間での配付は、1タイトルあたり約500か所、計1500～2000冊の配付を予定している。よって、1タイトル5000冊の図書について、全てを配付完了するのは、約3年後となる。

Ⅲ. 活動の実施経過

当初予定計画	実施結果	実施内容と遅延の理由
2006年10月	2006年10月	コンクールの募集要項を確定
2006年10月～11月	2006年11月～12月	作品の募集
2006年12月	2007年1月～2月	応募作品の審査 入賞者及び出版作品の決定
2007年1月	2007年3月	審査結果発表 表彰式(ヴィエンチャンにて)
2007年4月		審査結果及び表彰式の様子を新聞紙上で報告
2007年2月	2007年5月～9月	出版作品の挿絵依頼と文章の修正
2007年3月～4月	2007年9月～10月	編集作業(編集完了次第順次印刷)
2007年5月～6月	2007年11月～12月	印刷
2007年9月～	2008年1月～	出版した図書を各学校に配付

Ⅳ. 活動の成果

この事業の実施により、以下のような成果を得られた。

- ・全国対象のコンクールとして、広い地域に時間をかけて呼びかけた為、北から南まで9県からの228作品の応募があった。創作環境の地域間格差の是正と作家志望者の掘り起こしに繋がった。
- ・チャンスの少ない若手に、作品を発表する場を提供したことにより、若手作家や作家志望者の創作意欲が向上した。
- ・コンクールの優秀作品を出版することにより、子どもたちへバラエティに富んだ図書を提供した。(10,000部の出版と配付により、学校教員・子ども約50,000人が受益) 現在のラオスでは、子ども向けの図書は絵本が中心で、絵本の次に読むような図書がほとんどない。このような状況において、小学校高学年～中高生向けの読み物は非常に貴重であり、教育現場へ新しい副読本の提供となった。特に、エッセー・ノンフィクションといったこれまでにほとんど出版されていない分野の書籍は、現地での評判も高い。

Ⅴ. 今後の課題

作家の創作活動の安定や作家志望者の増加を目指し、同様のコンクールを定期的かつ継続的に実施することが当面必要である。さらに、出版と流通システムの形成を促すことにより、活動の現地化を図りたい。

バラエティに富んだ図書の提供と、読書機会の増加により、子どもの文字修得、教育内容の多様化、それにともなう文化的、社会的創造性の活性化に繋がると考える。

Ⅵ. 添付資料

- ① 出版作品 『人生と希望』 1冊
- ② 出版作品 『追憶』 1冊
- ③ コンクール表彰式の様子の写真 1頁
- ④ コンクール1位入選者へのインタビュー記事(当国会報40号より抜粋) 1頁

以上